

# 反響がたくさん来ています！

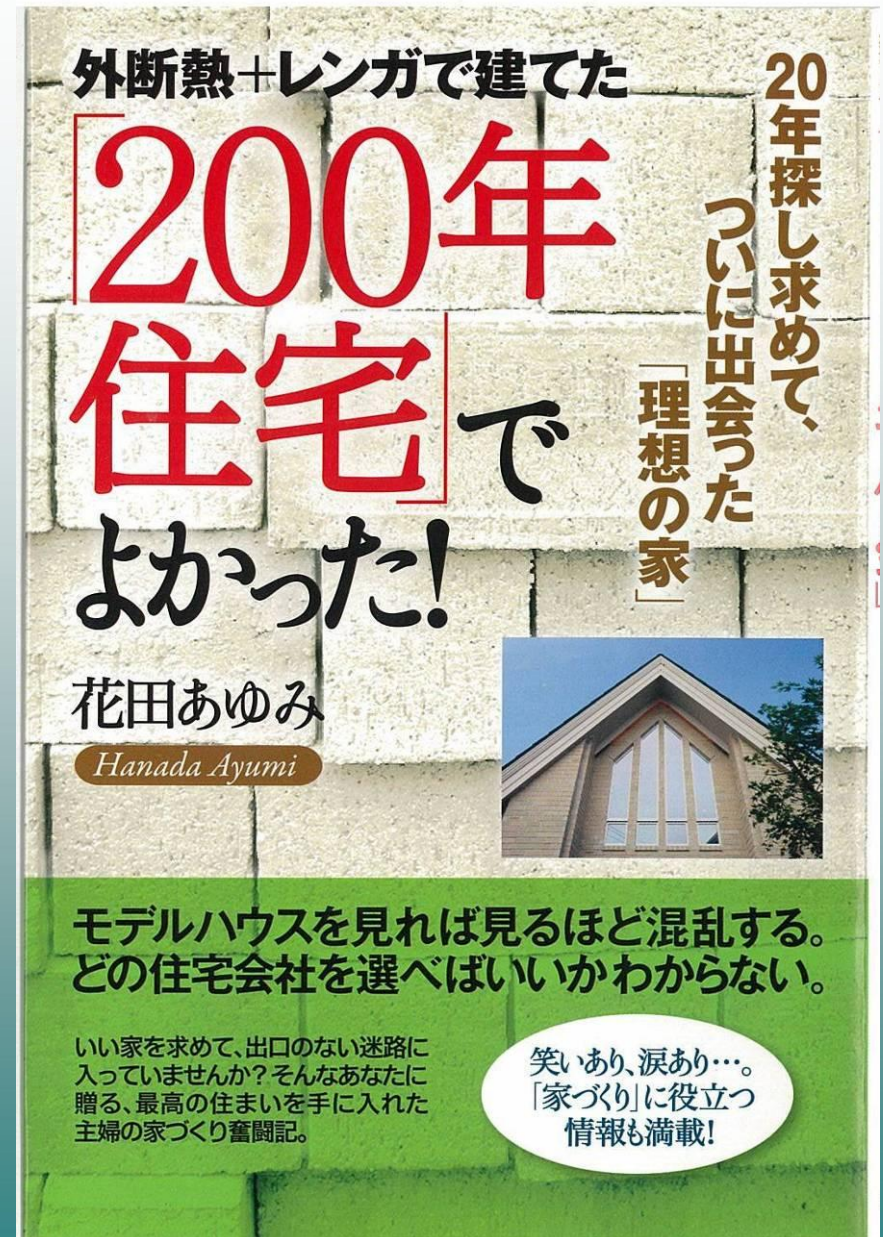
発売から早 1 ヶ月半が経ち 読者の皆様から大きな反響を頂いています。

HPへの資料請求や、電話でお問合せの方なども多く来場される方も本を読んで興味を持っていただいています。

家は家族の心と身体の健康を守ってくれる「幸せを育む箱」です。私は紆余曲折を経て、確かな家選びの基準を見つけ。家族の幸せをその家に託すことができました。予算繰りの苦しさや夫婦の危機も経験しました。

でも、その過程ですら必要だったのだと、今は思えます。そんな私たちの物語が、これから家を建てられる方々の役に少しでも立つのであれば、こんな嬉しいことはありません

.....(「はじめに」より抜粋)



## —読んだ方の感想—

著者は、幼少期を宗谷やインドの厳しい自然環境の中で、また結婚後はフランスや社宅で過ごされ、寒さ暑さには非常に苦労されてきたようです。それと同時に様々な美的感覚や独創的な感性を磨いてこられました。このような経験を持たれる著者にとって、展示場で大手ハウスメーカーの住宅を見ても、「心に届く直球打に欠ける」ものばかりで、購入の決め手となる要素がないと記述してありました。私も幼少期から様々なハウスメーカーの住宅を見学する中で、同じような考えを抱いておりました。展示場に行けば、庶民のレベルには程遠い豪邸を見させられ、名前と住所を記入すれば最後、その夜に営業マンがやって来たり、強引な電話がかかったり等、そのハウスメーカーの経営方針、つまり営業マンの給料が歩合制によって決まるのを、見せつけられるようなやり方で、契約を迫ってきます。こうなってくると、住宅を購入する側とすれば、家づくり自体の面白さや魅力が失われ、逆に不信感や猜疑心が先走り、マイホームをつくるという気持ちが失せてしまいます。一体本当は何が大事か分からなくなります。皆さん々思いをしているんだと安心しました。（横浜市 H様）

世の中がエコを謳っていてもまだどこか単なるブームの一環であるように感じられる昨今。実際に著者も初めは家造りの選択の基準が定まらずデザイン重視であったように、まだこの国ではほとんどの主婦層が家造りに関しては見た目とコストを重視するにとどまっていると思います。

営業マンがどんな人かは気にはなっても実際に家を建てる大工さんや現場監督がどんな人かなど気にもしません。ましてや電気屋さんや外溝業者さんまではとてもとても…地震や火事が怖くても基礎の幅やコンクリートの強度など知る由もありません。電気代を節約しようと思っても断熱材の素材や厚さにまでは目が向きません。ほとんどの主婦層がこんな感じではないかと思えます。でもこの本を読んでそういった事も家造りには大切な1つのスパイスなんだと改めて感じました

（横浜市 Y様）